



# きずな

21世紀を  
人権の世紀に  
しよう!

発行元：四国中央市人権教育協議会 〒799-0497 四国中央市三島宮川4-6-55  
電話：0896-28-6028 E-mail:jinkyo@city.shikokuchuo.ehime.jp

## 人権ポスター

土居中学校 はなだ ゆうと  
花田 裕斗さんの作品



### 作者からのメッセージ

心には、たくさんものがあります。自分が持つものと人に与えるものなど。だから「大切なもの」とも書きました。  
人それぞれ心を持っています。すごく大切なことだと思い、手のひらに心を示すハートの形を描きました。

### 今月の 主な記事

- 1ページ 人権ポスター
- 2～3ページ 人権・同和教育研究大会（社会教育部）～パネルディスカッション～
- 4ページ 人権作文・編集室から

## 人権作文

### 行動を起こせる私になるために

愛媛県立三島高等学校 二年 蝶野 鈴佳

「多様な価値観を認めないことが、今も差別や偏見を残している原因の一つである。」  
私が中学生の時、父から聞いた言葉だ。そのときの私は、父が言った言葉の意味をなんとなくわかった気だったが、それほど深く考えられていなかったように思う。

テレビやインターネット等で、人権に関わる問題を目にしたとき、それについて父や姉と話をすることがよくある。今年行われた東京オリンピックでも、人種や性別による差別に対する抗議行動がニュースで報じられていたが、そのことも話題に挙がった。これまで人権について学んできた中で、現在も人種差別や女性差別が残されていることは知っていた。しかし、正直、選手たちのように抗議を起そうと思うほど、身近にそれらの差別を感じてはいなかった。本当に自分の周りには差別や偏見はあるのだろうか。気付いていないだけで、本当は自分も差別に出会っていたのではないか。父や姉の話を聞きながら、自問自答していた。「今、自分の周りにどんな差別や偏見があるのか」という私の問いに対して、父がいろいろ側面から話をしてくれた。二〇一六年に、「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」という三つの法律、いわゆる

人権三法が施行されたこと。それを受け、私が住む四国中央市の「人権尊重のまちづくり条例」の一部が改正されたこと。法律が作られるということは、差別が残されているからだということ。初めて知ることばかりだった。

では、なぜ私はそれらの差別を身近に感じられていなかったのだろうか。父や姉と話をしながら考えた。そして、辿り着いた理由は、「わがごとくしていいなかったから」ということだ。何をわがごとくしていいなかったのか。それは、「差別や偏見の現実」と「被差別の立場の思い」である。

人種差別や女性差別がある。障がいのある人に対する差別がある。部落差別がある。その事実は知っていた。しかし、なぜそれらの差別が残っているのか、どういう形で今も在るのか、被差別の立場にある人はどんな思いなのかということについては、わからず、知ろうという姿勢がなかったように思う。私が身近に差別を感じられていなかったのは、知らなかったから、気付かなかったからなのだ。

それに気付いたとき、怖くなった。これまでの自分は差別や偏見を見逃していたのかもしれない、もしかしたら、自分も差別してしまっていたかもしれないと感じたからだ。

最初の父の言葉にある「多様な価値観を認める」ために必要なことは、相手のことを知ること、知ろうとすることだと思ふ。差別をなくすために、今の自分のできることを。それは、正しいことを学び続けること、相手の気持ちに思いを巡らせること。差別をしない、差別解消に向けて行動できる自分になるために、知識と思いをアップデートし続けたい。

## 編集室から

「私も差別と闘いたい」この言葉は、本校で行った人権劇での主人公のセリフである。新型コロナウイルス感染症対策のため録画したものを上映する形にはなったが、全校生徒や保護者の方に自分たちの思いを伝えるため、何度も何度も練習をした。最初、子どもたちは自信がなかったり、恥ずかしかったりして上手にセリフを言えなかったが、本番は思いのこもった迫真の演技で、見ている私は鳥肌が立った。生徒の表情はやり切った安堵の表情を浮かべていた。また、出演していたある生徒は人権劇後に保護者の方と話をし、「自分もなぐす側に立てるように行動していくわ」と言ってもらったと喜んでいました。

子どもたちは差別と闘っているのだ。本当に闘わなければいけないのは私たち大人なのかもしれない。職場や日常生活の中で、差別の芽はなかなければならない。沈黙は黙認である。見て見ぬふりではない。これまで経っても差別はなくならない。差別をなくすのは誰かのためではなく、自分のためなのである。また、みんなが本当の意味で幸せに暮らすためなのである。私は、子どもたちにとって「差別と闘っている」ロールモデルであり続けたい。

(T・A)

家族で回覧して下さい